

# けんぽく農林ニュース

ふくしまから はじめよう。  
「食」と「ふるさと」新生運動ニュース

～県北地方の「食」と「ふるさと」新生運動に関する  
情報をお知らせします～



県北地方では、伊達市を中心にいちご栽培が盛んです。ハウスの中は、働き者のミツバチが花を飛び回り、いちごの甘い香りでいっぱいです。



いちご高設栽培とミツバチによる受粉の様子  
(福島市)

## 福島県県北農林事務所長 年頭所感



佐藤新太郎県北農林事務所長

県北農林事務所長の佐藤新太郎です。  
本年もどうぞよろしくお願いいたします。  
さて、県では、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興・再生を進めるため「ふくしま農林水産業新生プラン」を策定し、平成25年より、『食』と『ふるさと』新生運動」として「食の安全・安心運動」、「生産再生運動」、「風評払拭・消費拡大運動」、「情報発信運動」の4つの運動を柱とした様々な取組を、各関係団体の皆様とともに進めてきたところです。

東日本大震災からまもなく7年を迎えようとしておりますが、当事務所管内では、川俣町山木屋地区内の避難指示が平成29年3月に解除され、花きや水稲、畜産等の営農の再開に向けた取組が進められるなど、復興に向けた着実な歩みがみられています。

また、県北地方の特産品であるあんぽ柿については、加工・出荷再開5年目となり、出荷数量が回復しており、さらに、あんぽ柿の加工・選別・包装施設「あんぽ工房みらい」の本格稼働により、産地強化に向けた取組が加速してきております。

その一方、本県農林水産物に対する風評が根強く残っているのが現状であるため、当事務所といたしましては、営農再開支援の一層の強化や、水稲・園芸品目の生産拡大、さらにはGAP認証取得推進の取組を通じて、県産農林水産物の風評払拭やブランド力強化、消費者の信頼確保等を進め、県北地方の農林業のさらなる復興・再生に向け取り組んでまいります。

今後も、県北地方の農林業の生産振興に向け、職員一丸となり全力で取り組んでいく所存ですので、皆様方により一層の御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 平成29年度「食品表示法研修会(県北地方)」を開催！

平成30年1月17日(水)、福島県庁本庁舎5階正庁において、当事務所主催の「食品表示法研修会」を開催しました。

昨年、食品表示法の一部が改正され、全ての加工食品に原料原産地表示が義務づけられたことから、研修会の注目度は高く、募集人数以上の申し込みがありました。県北地方の漬物や菓子等を扱う加工業者、農産物直売所の出荷者・担当者、食品業者等約100名が参加しました。

当事務所の佐藤所長の挨拶の後、企画部の久保木主事、横山主事による「品質事項」、「原料原産地表示」の説明と、県北保健福祉事務所の本郷主査、田村主任栄養技師による「衛生事項」、「保健事項」の説明を行いました。

参加者からは、「もっと詳しく聞きたい。」などの要望が寄せられ、食品の表示や安全に対する意識の高さが感じられる研修会となりました。(企画部)



佐藤所長の開会挨拶



大勢の方が参加しました

## 「『絆』で拓く！ふくしま未来農業創出事業セミナー」を開催！

平成30年1月16日(火)、福島県伊達合同庁舎会議室において、当事務所伊達農業普及所主催の「『絆』で拓く！ふくしま未来農業創出セミナー」を開催しました。

本セミナーは、高齢化が進行する中、農業の6次産業化や着地型観光を進めることで雇用創出を図り、農業経営を発展させる手法を学ぶことを目的に、管内農業生産法人や農業者約40名が参加しました。

吉田所長の挨拶の後、三重県伊賀市の「伊賀の里モクモク手づくりファーム」の木村修会長から、「これからの儲かる農業は、価値を伝え自ら売る」と題して講演をいただきました。

木村会長からは、5万世帯の消費者とともに観光農業を育て上げた実績を踏まえ、「農産物の生産原価を把握して6次化により付加価値を高め、自ら価格決定することで利潤を確保する者が農業経営者」であり、「自らの生産物への思い・こだわり・情熱・哲学を繰り返し伝え、消費者

の理解を共感から応援に深めるようなブランド化が肝要」との貴重な助言をいただきました。

その後、「『絆』で拓く！ ふくしま未来農業創出事業」（以下「絆事業」という。）により、農業の6次産業化・着地型観光農業に取り組む「株式会社りょうぜん結<sup>ゆい</sup>」の清野直人代表取締役から経過報告をいただきました。この取組は、平成30年春にオープンする道の駅「伊達の郷りょうぜん」と連携しています。

翌日は、木村会長に道の駅「伊達の郷りょうぜん」及び「株式会社りょうぜん結」の交流拠点のいちご栽培ハウスを視察していただき、関係者とともに今後の活動について話し合いました。

当普及所では、今回のセミナーを契機に、さらなる経営体の育成・強化と地域活性化に向けて支援してまいります。  
(伊達農業普及所)



木村修会長による講演



講演を熱心に聴く参加者



清野直人代表取締役社長の経過報告



木村修会長がいちご栽培ハウスを視察



## 平成29年度「多面的機能支払交付金県北管内研修会」を開催！

平成30年1月12日(金)と1月19日(金)の2日間にわたり、二本松市と伊達市において、当事務所農村整備部の主催により、平成29年度「多面的機能支払交付金県北管内研修会」を開催しました。

多面的機能支払交付金に取り組んでいる活動組織の構成員などから、二本松市の会場には約120名、伊達市の会場には約150名の参加がありました。

多面的機能支払交付金は、農業・農村が有する多面的機能が適切に維持・発揮される地域の共同活動を支援するものです。具体的には、水路の泥上げや農道の路面維持、水路、農道等の軽微な補修、施設の長寿命化のための活動などを行う組織に支援を行っています。

研修では、最初に東北農政局土地改良技術事務所の専門技術指導官の中村明夫氏、技術評価分析係長の西澤隆氏の2名から講演いただきました。農業水利施設の長寿命化にかかる活動の中でも、特に要望が多く、直営でも実施できる水路の補修技術について、実際の作業の様子の動画も交えながら、詳しく説明をいただきました。

また、「水土里ネット福島」環境整備課長の三浦功司氏から関係書類作成時の注意点など、本県農林水産部農村振興課の金田誠主査から組織の広域化や事務の委託などについて説明を行いました。

参加者からは、直営施工にかかる資材の単価や、書類の作成方法などについて、多くの質問が寄せられました。

この研修会を契機に、多面的機能支払交付金についての理解が深まり、地域の共同活動やコミュニティの維持・強化が図られ、地域資源の適切な保全管理がなされるとともに、地域活性化の取組に繋がることを期待します。  
(農村整備部)



二本松市(1月12日(金))での研修会の様子



伊達市(1月19日(金))での研修会の様子



## 平成29年度「県北地方福島県オリジナル水稻品種試食会」を開催！

平成30年1月30日（火）、ふくしま未来農業協同組合松川支店において、当事務所主催の平成29年度県北地方福島県オリジナル水稻品種試食会を開催しました。

試食会には、県北地方の水稻生産者・消費者・量販店・集荷業者、全国農業協同組合連合会福島県本部、ふくしま未来農業協同組合、市町村職員らが出席しました。

当事務所職員が、本県オリジナル水稻品種「天のつぶ」と「里山のつぶ」の生産振興や推進体制、本年産米の実績等を説明した後、この2品種の試食を行いました。

「天のつぶ」は平成23年から一般作付けを開始した品種で、粒がしっかりしていて食べごたえがあるため、丼物にも良く合いますが、お米だけで食べても非常に美味しい品種です。他の品種と比べ硬めの食感が特徴ですので、特に若い人に特に好まれると思います。

「里山のつぶ」は平成29年から一般作付けを開始した中山間地に適した良食味品種です。「天のつぶ」と同様、粒がしっかりして美味しく栽培しやすいため、本県では中山間地での作付拡大を図っています。

試食した参加者からは、「『天のつぶ』は香りや粘りが良く美味しかった」、「『里山のつぶ』はもちり感があり、食べていて甘みを感じる」などの高評価をいただきました。

当事務所では、今後も関係機関と連携し、「天のつぶ」及び「里山のつぶ」の生産拡大や品質向上に向けた活動を展開してまいります。  
(農業振興普及部)



試食したお米とポスター



試食風景



「天のつぶ」と「里山のつぶ」を関係者で試食



「おいしい！」と高評価

## 平成29年度「ペポカボチャ生産振興セミナー」を開催！

前号で参加者募集をした「ペポカボチャ生産振興セミナー」についての報告です。

平成30年1月11日（木）、福島県伊達合同庁舎2階大会議室において「平成29年度ペポカボチャ生産振興セミナー」を開催しました。主催は当事務所伊達農業普及所で、伊達市内の生産者や関係者等、約40名が参加しました。

まず、伊達農業普及所の平野主査がペポカボチャに関する活動経過と今後の活動について報告をした後、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター 農学博士 嘉見大助氏より「種子食用ペポカボチャ『ストライプペポ』の現状と栽培のポイントについて」と題した講演をいただき、最後に有限会社三宝工業 農業部執行役員 長田吉正氏がペポカボチャの商品と販売状況について紹介しました。

特に、講師の嘉見大助氏は『ストライプペポ』の生みの親であり、最新の知見等を含め栽培のポイント等を分かりやすく説明していただきました。

参加者からは、「ペポカボチャの栽培に興味を持った。」、「もっと詳しく話を聞きたい。」等の意見が聞かれました。

当普及所では、「農商公連携による地産地商」を活動スローガンとして、引き続きペポカボチャの生産振興と販売促進を支援していきます。 (伊達農業普及所)



吉田伊達農業普及所長の挨拶



嘉見大助氏による講演



長田吉正氏による商品紹介



ペポカボチャとペポカボチャを活用した商品及び紹介パネル



## 平成30年「福島市農始祭」が開催されました！

平成30年1月17日（水）、福島市のウエディングエルティにおいて、福島市及びふくしま未来農業協同組合の共催による平成30年「福島市農始祭」が開催され、約240名が出席しました。

農始祭では、まず「福島市農業賞表彰式」が行われ、御功績のあった大宮篤司・紀子様御夫妻（もも、りんご）、末永喜広・初子様御夫妻（もも、りんご、ぶどう）、佐藤政義・由紀子様御夫妻（いちご、野菜、水稲）が表彰されました。当事務所からは、佐藤所長が出席し祝辞を述べました。

その後、農林業や商工業関係者が参加し、「新春交歓会」が盛大に行われました。（企画部）



佐藤所長の来賓祝辞



福島市農業賞の受賞者

## 平成30年「福島市公設地方卸売市場初せり式」が開催されました！

平成30年1月5日（金）、福島市公設地方卸売市場において「初せり式」が開催され、多数の来賓及び市場関係者が出席しました。

市場の水産物部、青果部、花き部、それぞれで式が行われ、市場開設者である木幡浩福島市長、市場関係代表者として株式会社福島丸公代表取締役会長 石本朗氏、福島中央青果卸売株式会社代表取締役社長 眞柴三次氏、株式会社福島花き代表取締役社長 橋本栄市氏が挨拶しました。

来賓紹介の後、手締めで各部の「初せり式」は終了しました。

その後、初せりが行われ、市場はせり人の威勢の良い掛け声に満ち溢れていました。

（企画部）



佐藤所長の挨拶



初せりの様子

## 「川俣シャモ供養祭」が行われました！

平成29年12月15日（金）、川俣町内において、川俣シャモ振興会主催による平成29年度「川俣シャモ供養祭」が行われました。

供養祭には、川俣シャモ振興会会員（生産者）、川俣町長、川俣町振興公社社長等、関係者約30名が出席し、川俣シャモゆかりの川俣町内にある鶏魂碑<sup>けいこんひ</sup>前で行われました。

川俣シャモは、昭和61年から生産が始まり、平成18年からは有限会社川俣シャモファームにより種鶏の飼育・雛生産が開始されました。川俣町内の飼育農家に供給された雛は、約110日飼養された後、川俣町振興公社で加工・販売を行っており、地域産業6次化をいち早く実現させた県内でも先駆的な産地となっております。

川俣シャモの出荷羽数は、ピーク時の平成21年度65千羽から東日本大震災後の平成23年度には29千羽に落ち込みましたが、関係者の努力により平成28年度は54千羽まで回復してきています。

出席者は川俣シャモ発展の礎となった鶏魂への感謝の気持ちと、川俣シャモの更なる発展への願いを込めて手を合わせました。

当事務所としましても、今後も地域産業の推進と銘柄確立のために、飼養技術の改善、防疫対策の徹底等について、さらなる支援体制の強化を進めてまいります。（農業振興普及部）





## 「けんぽく6次化ミーティング」 Hot フルーツ！プロジェクトを開始します！

### Hot フルーツ！プロジェクトとは

果物を手軽に食することのできる商品の開発、販売、提供を推進し、県北を代表する果物の加工用材料の需要拡大及び果物産地としての知名度アップ、更には、コラボした県北管内の特産品をも巻き込んで果物を通じた活性化を図ることを目的とし、『Hot フルーツ』を多くの人に食べてもらい、「Hot フルーツを食べる！」を浸透させる運動のことです。

Hot フルーツで県北地域を一緒に盛り上げて行きましょう！

“Hot フルーツ”とは、**県北産果物**を使った「温かい商品」や「温かくして食べる商品」、「温めて食べる商品」をいう。

ご協力いただける事業者を募集しています！

プロジェクトへのご質問、加工用食材調達等の相談がありましたら、右記相談窓口まで→  
お気軽にご連絡ください。

けんぽく6次化ミーティング相談窓口  
県北農林事務所 企画部地域農林企画課  
TEL:024-521-2596 FAX:024-521-2850  
Eメールアドレス: kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp



### Hot フルーツ！プロジェクト

#### 「協力者募集 試食説明会」を開催します。

平成30年2月27日(火)、福島市市民会館において、プロジェクトの説明とアイデアレシピの試食会を開催します。

地域活性化、地域ブランド戦略に精通されている NPO 法人素材広場理事長横田純子氏より、Hot フルーツの可能性について御講義いただき、併せて協力者の募集を行います。

県北管内の果物を使った料理提供、加工品製造を考えていただける事業者、その材料となる果物やそれを加工した商品を提供できる事業者様の参加をお待ちしております。



詳しくは、下記ホームページ↓ をご覧ください

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/kikaku-6jika.html>

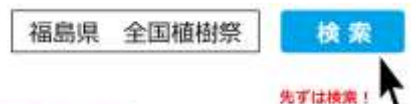
(企画部)

## 全国植樹祭、全国林業後継者大会 100 日前記念イベントを開催！

- 日 時：平成30年2月24日(土) 13:30~16:30
- 場 所：福島県男女共生センター 研修ホール（二本松市郭内一丁目196-1）
- 主催者等：〈主催〉第69回全国植樹祭福島県実行委員会  
〈共催〉第47回全国林業後継者大会福島県実行委員会
- イベント概要
  - 主催者挨拶（福島県知事）
  - 第69回全国植樹祭開催予告映像の放映（3分）
  - パネルディスカッション（30分）
  - 映画「WOOD JOB! ~<sup>かむさり</sup>神去なあなあ日常~」の放映（116分）  
※平成26年5月公開 染谷将太、長澤まさみ、伊藤英明などが出演する林業をテーマとした楽しい映画です。
- 参加予定人数：約400人（中高校生、大学生、一般県民、林業関係者など）  
※入場無料、事前申込制（申し込みは2月16日まで）

参加申し込みはインターネットから！

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/syokujusai/>



先ずは検索！

【森林林業部】

## 県北農林事務所職員、集合写真



本年も、職員一丸となって  
県北の農林業を応援します！

次ページより、  
各部・所の取組と、  
若手職員の「イチオシ」を紹介！



## がんばります！ 企画部！



平成29年11月の「おいしい ふくしま いただきます キャンペーン！」でPRを行う企画部長（写真右）

企画部長の鈴木淑彦です。

当部は2つの課から成り、地域農林企画課では、主に農林業振興に係る企画・調整、グリーン・ツーリズム、地域産業の6次化、地産地消・食育等に関連した業務、指導調整課では、主に農地転用等の許認可、農業団体等の指導・検査、食品表示法等の指導に関連した業務を行っています。

昨年は、管内の直売所、道の駅、市場、ヨークベニマルで、農産物の消費拡大や風評払拭のための「おいしい ふくしま いただきますキャンペーン！」を、延べ4回実施しました。関係者の皆様には、御協力をいただき大変ありがとうございました。

本年も、2月21日（水）に農家民宿セミナー、2月26日（月）に6次化先進地視察交流会の開催等を予定しております。御興味のある方は、企画部にお問い合わせの上、ぜひ御参加ください！本年度も、県北地方の農業者の幅広い取組を全力で応援していきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

（電話：企画部地域農林企画課 024-521-2596、指導調整課 024-521-2597）

## 私のけんぽくイチオシ！



昨年4月に採用となりました企画部主事の久保木浩美です。

私が紹介するのは、6次化商品の「至福の桃ソルベ」と「至福の桃グミ」です。いずれも、ももの「あかつき」の果汁を使用して作られており、上品な風味と甘酸っぱい味わいが最高！

昨年、一般社団法人桑折町振興公社が開発・販売開始したもので、桑折町のうぶかの郷や、福島県観光物産館などで購入できます。ぜひ一度食べてみてくださいね。

■[www.town.koori.fukushima.jp/soshiki/3/20171101.html](http://www.town.koori.fukushima.jp/soshiki/3/20171101.html)

県では、地域産業の6次化を推進しており、今回紹介した商品以外にも、様々な6次化商品が生まれています。「ふくしま地域産業6次化新商品カタログ」に、たくさんの「けんぽくイチオシ」の6次化商品が掲載されておりますので、ぜひ御覧ください！

■[www.6jika.com/catalog](http://www.6jika.com/catalog)



紹介者の企画部 久保木主事



6次化商品カタログ





## がんばります！ 農業振興普及部！



平成29年9月11日開催の「第1回JGAP取得チャレンジセミナー」で受講者にアドバイスを行う農業振興普及部長

農業振興普及部長の松浦幹一郎です。当部は3つの課から成り、農業振興課では営農再開支援事業を始めとした補助事業関連業務、地域農業推進課では担い手の育成、農地の利用集積や遊休農地の解消、米の全量全袋検査、水稻・麦・大豆などの土地利用型作物・畜産・花きの産地支援、経営支援課ではGAPの取得推進や鳥獣被害防止対策、野菜・果樹の産地支援、園芸作物の放射線モニタリング関連業務などを行っています。

昨年は、3月に川俣町山木屋地区の避難指示区域指定が解除され、本格的な営農再開に向け、水稻や飼料用トウモロコシの実証栽培、乳用牛の飼養実証などを行い、また、営農再開支援事業等を活用して

のほ場改良、機械や施設の導入などを通じて営農再開を支援しました。

さらに本県産農産物の風評被害払拭と2年後の2020東京オリンピック・パラリンピックへの県産農産物の食材提供を目標とした、第三者認証GAP取得推進のため「県北・相馬地方GAP研修会」を2回、「JGAP取得チャレンジセミナー」を6回開催し、GAPの周知と取得の支援を行いました。

本年も引き続き関係機関団体の皆様の御協力をいただきながら、各種補助事業や産地支援活動等を通じ、県北地方の農業振興に精励いたしますので、よろしく願いいたします。

(電話：農業振興普及部農業振興課 024-521-2604、地域農林企画課 024-521-2608、経営支援課 024-521-2609)

## 私のけんぽくイチオシ！



採用2年目の農業振興普及部技師の石川万里那です。

福島県の郷土料理「いか人参」について御紹介します。「いか人参」は、スルメイカと生のにんじんを漬けだれと混ぜ合わせて作ります。古来より、冬の福島盆地で手に入る食材といえば、干物のスルメイカ、野菜はにんじんであったことから、その二つを合わせて作った御馳走が由来とされています。

「いか人参」に使用するのは「<sup>ながにんじん</sup>長人参」と呼ばれる長いにんじんです。12月になると直売所等で長いにんじんが並ぶのを目にしますが、これが「いか人参」専用の「長人参」です。福島市の特産品で、ぱりとした食感と濃い味わいが特徴で、正に「いか人参」にピッタリ。是非、福島市の「長人参」を使った「いか人参」を御賞味ください！

当管内の福島地区生活研究グループ連協議会では、福島県の郷土料理の伝承活動を行っており、農業振興普及部では、その取組を支援しています。



紹介者の農業振興普及部 石川技師と  
福島市特産の長人参



福島の郷土料理「いか人参」



## がんばります！ 伊達農業普及所！



平成30年1月の「『絆』で拓く！ ふくしま未来農業  
創出事業セミナー」で挨拶する伊達農業普及所長

伊達農業普及所長の吉田清です。

当普及所は、地域農業推進課と経営支援課の2課体制で、農業を担う人材を育成しながら、食の安全・安心を基本とした農産物生産を進めているところです。

平成29年度は「くだもの王国の発展と環境と共生する農林業を育む里づくり」を組織目標として、「ひとづくり」、「ものづくり」、「地域づくり」、「原子力災害からの復興・再生支援」の視点で普及指導活動を行ってきました。

平成29年は天候不順が続く中で、もものせん孔細菌病対策や水稻や野菜等の病害虫防除対策の指導を徹底したことで、主要品目の生産量は、前年並みを確保することができました。また、近年増えているももやきゅうり生産に新たに取り組む担い手を支援してまいりました。さらに、あんぽ柿については、放射性物質検査の効果的な実施を支援し、安全性を確認することで、出荷数量が順調に回復してきているところです。

昨年末から寒い日が続いていますが、引き続き、農作物の安定生産を支援しつつ、新たな担い手の育成・確保に取り組んでまいりますので、今後ともよろしくお願ひします。

(電話：伊達農業普及所 024-575-3181)

## 私のけんぽくイチオシ！



採用3年目の伊達農業普及所の果樹担当の南和希です。

私の「けんぽくイチオシ！」は、「伊達地域のあんぽ柿」です！

あんぽ柿は、東日本大震災の発生に伴う福島第一原子力発電所事故の影響で平成23年から2年間、加工自粛されていましたが、平成25年に出荷再開を果たしました。その後、出荷量は順調に増加し、昨年度は震災前の約75%となる約1,154tまで回復しました。

あんぽ柿の特徴は、硫黄くん蒸と呼ばれる独特の製法により引き出されるきれいな飴色であることです。この美しい見た目に加えて、上品な甘さと、とろりとした食感が絶品の「伊達地域のあんぽ柿」を、皆さんぜひ味わってみてください。なお、あんぽ柿は3月末頃まで販売しています。



伊達農業普及所前に立つ伊達農業普及所 南技師



飴色に輝く伊達の「あんぽ柿」

## 私のけんぽくイチオシ！



採用2年目の伊達農業普及所の野菜担当の森智絵です。

私の「けんぽくイチオシ！」は、県内一の生産量を誇る「伊達地域のいちご」です！

「伊達地域のいちご」は、約100戸の生産者の皆さんが精魂を込めて栽培し、福島県内のほか北海道にも出荷され、約6億円の年間販売額を誇っています。主力品種は「とちおとめ」で、収穫期間は11月から6月となっており、立春以降に出荷最盛期を迎えます。

伊達農業普及所では、ハウス内の温湿度、二酸化炭素濃度等の環境測定値に基づいた技術指導に重点を置きながら、いちごの品質・収量の向上に努めています。

甘さと酸味のバランスが抜群の美味しい「伊達地域のいちご」を、皆様にたくさん味わっていただきたいと思います。



いちご栽培の指導をする伊達農業普及所 森技師



伊達地域特産の「とちおとめ」





## がんばります！ 安達農業普及所！



トップセールスにて安達地域産米のPR  
を行う安達農業普及所長

安達農業普及所長の阿部正彦です。

当普及所は、二本松市、本宮市、安達郡大玉村の地域を所管しています。

地域農業推進課、経営支援課の2課からなり、「普及指導計画（平成 27～31 年）に基づく重点課題を中心に、JAや市村、県試験研究機関等と連携して地域に密着した普及活動を13名体制で行っています。

安達地域の主要作物としては、耕地面積の3割を占める水稲、園芸作物としてはきゅうり、アスパラガス、ミニトマト、日本なし、りんご、小ぎく、りんどうなど、畜産では、酪農や肉用牛の繁殖、肥育が主に行われているほか、有機栽培や特別栽培、農産物の直売や加工販売等にも積極的に取り組ん

でいる地域であり、東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故からの復興・再生に向けて、放射性物質の吸収抑制技術の普及指導、農産物のモニタリング検査、避難農業者に対する営農再開支援を行っています。

また、昨年5月のより良い農業の証であるGAP日本一を目指す「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」の実現に向けた支援も行っています。

今後も引き続き安達地方の農業振興に向けた支援をしてまいりますので、よろしくお願いいたします。  
(電話：安達農業普及所 0243-22-1127)

## 私のけんぼくイチオシ！



昨年4月に新規採用となりました安達農業普及所技師の三浦紗美です。

私の「けんぼくイチオシ」は、なんと言っても「米」と「肉」です。

安達地域は、肥沃な土壌と水利に富む中央から南西部の平坦地は、良質な米が生産されており、西部の安達太良連峰山麓は、県内有数の畜産地帯です。

おいしいお米とおいしいお肉を、ぜひ皆様にも味わっていただきたいと思います！



安達地域で栽培されている米



安達太良連峰山麓で飼育されている和牛



## がんばります！ 農村整備部！



山内農村整備部長(左端)と農村整備部職員

農村整備部長の山内冬彦です。

農村整備部は農業の基盤となるほ場整備や水路、農道やため池の改修を行っており、本誌第1号の平成25年12月から4年間で、7箇所のため池の改修を終え、現在は、ため池2箇所と3地区の水路改修を進めています。

また、昨年避難解除された川俣町山木屋地区では、営農再開の基盤を整え、地域再生を加速化させるために、全域で約240haの暗きょ排水及び延べ80kmに及ぶ農業用水路の整備に取り組んでいます。

県北管内では、農業施設の多面的機能支払交付金を活用し、178組織において約6,200haの維持補修

等が行われており、その取組の支援も行っております。

今後はさらに、意欲ある農業の担い手が安定した経営を行うことができるほ場整備事業の促進や、管内約400箇所の取水堰、約123,152kmに及ぶ農業用水路の長寿命化対策など、農業農村の発展に向けた生産基盤整備を進めることが求められています。

農業生産基盤の整備、農村環境整備及び農業用施設の適正管理を進めるため、農村整備部一同、精一杯がんばります！！  
(農村整備部農地計画課:024-521-2617、農村整備課:024-024-521-2618)

## 私のけんぽくイチオシ！



昨年4月に新規採用となりました農村整備部の後藤真実です。

「私のけんぽくイチオシ」は、なんと言ってもため池整備事業です。

農業用ため池は、農業用水源として農業を支える水利施設の1つです。今年度県北農林事務所管内では、本宮市の岩根大池で優良農林水産土木工事を受賞しました。

私が担当する滝池は14haの水田をかんがいでいます。ため池工事の安全かつ細やかな整備に取り組み、県北地方の農業振興に貢献していきたいと思っております。



地盤支持力を確認している農村整備部の後藤技師



後藤技師が担当のため池工事の実施状況写真





## がんばります！ 森林林業部！



全国植樹祭のシンボルとして開催県内を巡回する「木製地球儀」を持ち第69回全国植樹祭をPRする森林林業部長 復旧のための治山事業等を実施しており、中でも平成8年度より整備を進めてきた広域基幹林道「大霊山線」の全線完了は大きなトピックとなりました。本年も継続してこれらの取組を推進してまいります。

森林林業部長の菊地守です。

当部は森林の整備に関する業務をはじめ、林業課では木材と特用林産物の生産・利用、森林の保全、山菜やきのこの緊急モニタリング等に関する業務を、森林土木課では山地災害の防止、保安林の管理、林道の整備、林地開発許可等の業務を行っています。

昨年は、森林の有する公益的機能の維持増進のための森林整備事業や森林病虫害等防除事業、安全・安心なきのこ・山菜の生産流通の指導、森林施業を効率的に実施するための路網整備、山腹崩壊地等の

また、本年6月10日には南相馬市において「第69回全国植樹祭」が開催されます。県北地方にもサテライト会場（ふくしま県民の森）やPR会場（福島駅東口駅前広場）が設けられ、式典のパブリックビューイングや様々なイベントが計画されています。本大会は、東日本大震災への国内外からの支援に対する感謝と復興に向かって歩み続ける本県の姿を発信する絶好の機会です。大会の成功に向けて皆様の御協力をお願いします。

（電話：森林林業部林業課 024-521-2632、森林土木課 024-521-2639）

## 私のけんぽくイチオシ！



昨年4月に新規採用となりました森林林業部の小椋佳です。

私の「けんぽくイチオシ」は、なんと言っても伊達市の広域基幹林道「大霊山線」です。

大霊山線は、森林の適正な整備・保全や林業経営の効率化を推進するために利用されていますが、その景色も大きな魅力です。特に日本百景・うつくしま百名山に指定されている「霊山」は、新緑や紅葉といった四季折々の異なる顔で利用者を迎え、楽しませてくれます。また、林道沿線の各所から望む安達太良山、吾妻山、半田山、蔵王などの大パノラマは迫力満点です。



大霊山線より霊山を望む



紹介者の森林林業部 小椋技師、大霊山線見晴台にて



## がんばります！ 総務部！

当部は、組織管理業務、公共事業に係る入札関連事務、経理事務、庶務、情報公開等の業務を行っています。組織全体のまとめ役として、所内各部・所の業務が円滑・着実・効果的に進むよう取り組んでいます。

## けんぼくの6次化の取組の紹介 白根料理加工グループ「みゆーるの会」 「白根特産『もろこし』で地域おこしに挑戦！」



私たち白根料理加工グループ「みゆーるの会」では、白根地区の特産品である「もろこし」を使った加工品作りに取り組んでおります。「みゆーる」とは、フランス語で「桑の実」のことで、<sup>さん</sup>蚕都梁川の桑にちなんで名付けました。

「もろこし」はイネ科の一年草で、別名「たかきび」とも呼ばれています。

毎年、地区内で栽培し、収穫をして、粉や粒、焼酎に加工していましたが、手軽に食べていただけるよう「もろこしもち」を商品開発しました。

今後は、もっと手軽に「もろこし」を食べていただけるように、商品を開発していきたいと考えています。

「もろこしもち」は、現在、ふくしま未来農業協同組合の農産物直売所「みらい百彩館『んめ〜べ』」や白根支店、地域のイベント等で販売しています。

昔懐かしい味がする「もろこしもち」を、ぜひ皆さん食べてみてください！

- 事業者データ 白根料理加工グループ 「みゆーるの会」  
住所：〒960-0721 伊達市梁川町白根字館 56（会長宅）  
TEL：024-577-4566



商品開発した「もろこしもち」



「みゆーるの会」のメンバーの皆さん

編集・発行 福島県東北農林事務所 企画部 地域農林企画課

電話 024-521-2596 FAX 024-521-2850

ホームページ <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36210a/>

電子メール [kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp](mailto:kikaku.af01@pref.fukushima.lg.jp)

